
Lyrical Of Destiny **儚き孤独の魔法双剣士...**

フリオニール

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

L y r i c a l O f D e s t i n y 儚き孤独の魔法双剣士…

【Nコード】

N 3 4 6 5 P

【作者名】

フリオニール

【あらすじ】

スタン達に敗れ……………そのまま死にゆくはずの運命だったリオン・マグナス……………だが……………彼は生きていた……………別世界で……………

プロローグ

とある洞窟………

「なんの真似だ…リオン！」

「見ての通りだ……ここから先へ進みたければ…僕を倒す事だ…」
神の眼を持ち去ったヒューゴを止めるべく…スタン、ルーティ、フ
イリア、ウッドロウは…かつて共に戦った…リオン・マグナスと対
峙していた……

「なに言ってるんのアンタ！今がどんなに非常時なことくらい、わか
ってんでしょ……！」

「そんな事は関係ない…僕は与えられた役割を果たすだけだ…お前
達を殺すというな………」

「目を覚ますんだリオン君！君はヒューゴに利用されているだけだ

「！」

「その通りだ…僕はヒューゴにとって使い捨ての駒の一つに過ぎない……」

「そんな…そこまでわかっていて…どうして……！！」

みんなが必死に説得するも…僕は受け入れはしなかった……
いや……受け入れる訳にはいかなかった……何故なら…僕に
は……

「僕には守るべきものがある………それだけの事だ………
……」

そう…僕は…ヒューゴに人質にとられた愛する人を……マリアン
を……守りたい………その想いが…今の僕を動かしていた……
……

「覚悟はいいか！いくぞ、スタン！！」

戦い始めてしばらくたった………

「終わりだ……奥義……！浄破滅焼炎……！」

ズバァ……！！！！！！

完全に決まった………はずだった………だがスタンは…奥義
をかくぐり………

「な！？」

「うおお……！殺劇……！舞荒剣……！だりやりやりやり……！」

ズガガガ……！！

「ぬ……！！くう……！！！」

「だぁぁりやぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ……！」

ドゴオン……！！！！

スタンの放つ剣撃と轟炎が僕を吹き飛ばした………

「かはっ！？」

「はぁ……はぁ……リオン……なんで………」

「スタン………」

ゴゴゴゴゴゴ………

突然洞窟が揺れた………恐らくはヒューゴがダイクロフトの

.....さよなら.....マリアン.....

こうして僕は死んだ.....はずだった.....
.....だが.....なんの因果か.....はたまた.....神の気まぐれなのか.....
.....僕は.....生きていた.....
ここは.....どこだ.....

ザザァン.....

「.....海.....なのか.....」

どうやら.....浜辺に打ち上げられたらしい.....だが.....
.....よく.....助かったものだ.....

タッタッタ……

「あれ？……え！？け……怪我人！！」

一人の少女が……僕に近づいてきた……どうやら僕を見て驚いているようだ……

（そうか……スタンとの戦いで……）

「だ……大丈夫ですか！！……えっと……えっと！」

どうやらかなり慌てているようだ……確かに……体のあちこちが痛む……出血もしている……

「あ！お母さあん！！！！お母さあん！！」

少女が必死で呼ぶと……今度は母親であろう人が近づいてきた……

「どうしたの？なのは……！！？大変！！この子怪我してるじゃない！！」

「そうなの！！どうしよう！！」

「とにかく……」

（？？？声が……聞こえなくなっただけ……視界も……ぼやけ……）

そのまま……僕は……気を失った……

次回に続く!!

なんとなく考えついた、みんなの勝利セリフ。「テイルズ編」

なのは（少女期）、フェイト（少女期）、リオン。

「足さえ引つ張られなければこんなものさ。」

「「そんなあ!?!」」

スバル、ティアナ。

「見た見た!ティアナ!」

「見てなけど?」

「見ててよ!?!」

佑輔（東雲流）、リオン。

「俺達の剣に!」

「…………ふん…………」

「…………乗ろっぜリオン…………（汗）」

佑輔（東雲流）、シグナム。

「俺達の剣に！！」

「た…断てぬもの…なし…／／／／」

「こっちは恥ずかしがるんかい…（汗）」

エリオ、キャロ、佑輔（ガンダム）。

「僕達の勝ちです！！」

「強くなつたなあ、二人とも。」

「えへへ」

なのは（STS）、フェイト（STS）、はやて（STS）。

「ふう…こんなものかな？」

「うん、いい感じだったね。」

「ウチらの連携は完璧や」

佑輔（ガンダム）、はやて（STS）、リイン？

「勝ちました」

「ユニゾンしたウチらを甘く見んことや」

「……………俺は別の意味でユニゾンしたい……」

「……はい？」

佑輔（ガンダム）、はやて（STS）、リイン？ part 2
（敵が女性の場合）

「お嬢さん…アナタに武器は似合わない…人生の転機として…俺と楽しくしつぱりとデートを……」

「……………なんやて…？（怒）」

「……………ナンデモアリマセン……………（汗）」

「懲りないですね（汗）」

スバル、エリオ、キャロ、ティアナ。

「やったあ」

「「やったあ」」

「うっ……や……やったあ……／／／／」

なのは（少女期）、フェイト（少女期）、はやて（少女期）、リオン（シャルティエ）。

「やったあ」

「「やったあ」」

『ほら、坊っちゃんも!』

「誰がするか!」

リオン、ユーノ（少年期）

「アイテム係ご苦労だったな。」

「え……やっぱり僕そういう役回りなの……?（汗）」

クロノ（少年期）、リオン（シャルティエ）、フェイト（少女期）

「これじゃ物足りないな。」

「ならここの敵はお前が食い止める、僕達は先に進む。」

「お兄ちゃん、頑張つて。」

「え…あの…（汗）」

『二人とも…きついですね…（汗）』

スバル、リオン、ティアナ。（時間がかかった場合）

「見たか！これが私たちの実力だよ！」

「ああ、それがお前の実力だ。」

「そうね、それがアンタの実力よ。」

「……………（汗）」

ルーテシア、キャロ、佑輔（ガンダム）、ヴィータ。

「……………このメンバーって…」

「まるでお父さんと娘たちって感じだね。」

「心配するな。俺よりかなああり年上の人が約一名いる。」

「てめえ……………どう意味が言ってみろ…（怒）」

「すいませんでしたああ!？」

ルーテシア、キャロ、佑輔（ガンダム）、ヴィヴィオ。

「……………このメンバーって……………」

「まるでお父さんと娘たちって感じだね。」

「……………（汗）」

「……………パパって呼んでいい？」

「俺は…なのはと結婚した覚えはないって…（汗）」

佑輔（ガンダム）、なのは（STS）、フェイト（STS）

「はあ……………」

「どうしたの？佑輔？」

「はやてがないから寂しいんだよ。」

「いや…疲れただけなんだけど…（汗）」

佑輔（ガンダム）、スバル、ティアナ。

「はぁ……………」

「どしたの？疲れたの？」

「……………歳ね……………」

「こっちは容赦ねえな！？（泣）」

佑輔（ガンダム）、ティアナ。

「佑輔！無駄弾が多いわよ！」

「おつかしいな…なんで当たらねえんだ…？（汗）」

リオン、なのは（少女期）、ユーノ（少年期）。

「結果は変わらん。そう…何度やってもだ。」

「リオン君…強い…（汗）」

「容赦…ないよね…（汗）」

シグナム、リオン。

「なかなかやるな、リオン。」

「ふん、相手が弱すぎるだけだ。」

リオン、シグナム、佑輔（ガンダム）。

「……………」

「……………」

「お願いだからなにか喋ってくれやがりませんか!？」

リオン、フェイト（少女期）、ヴィータ。

「邪魔するものは全て斬る。」

「か…かつけええ…」

「私も…言ってみようかな…」

ティアナ、リオン、佑輔（ガンダム）

「ザ・ツンデレチーム！」

「誰がツンデレよ（だ）！」

「ほら、息ピッタリです」

なのは（STS）、はやて（STS（ユニゾン状態））、佑輔（瀕死）、リオン。

「イッタタタ…（汗）」

「『佑輔！大丈夫………むう……』」

「………リオンなんとかしてくれ…この空気…（汗）」

「時間の無駄だ…付き合いきれるか…」

フェイト（STS）、はやて（STS（ユニゾン状態））、佑輔（瀕死）、ティアナ。

「イッタタタ…（汗）」

「『佑輔！大丈夫……………むう……………』」

「……………ティアナなんとかしてくれ…この空気…（汗）」

「知らないわよ……………佑輔の…バカ…」

なのは（STS）、フェイト（STS）、はやて（STS）、佑輔
（東雲流）

「私たちは…」

「『『負けない！』』』」

佑輔（メイドver）

「女装してるからって弱くなってるねえからな！！こんちくしょ〜
〜！！？」（泣）」

佑輔（メイドver）、リオン

「いつまでそんな恰好しているつもりだ…」

「したくてしてるわけじゃねえや…」（泣）

佑輔（メイドver）、なのは（STS）

「……………ヒラヒラして動きにくいぞ…」（汗）

「でも可愛いよ?」

「嬉しくねえ…」（泣）

佑輔（メイドver）、はやて（STS）

「はやて…もう勘弁してくれ…」（泣）

「今度はナースもええなあ」

「聞いてねえし…」（泣）

佑子（洗脳メイドver）

「あらあら」 いつの間にか終わっちゃったみたい」

佑子（洗脳メイドver）、リオン（シャルティエ）。

「うん 完璧です」

『さすがに… 同情しちゃいますね…（汗）』

「…………… ああ…（汗）」

佑子（洗脳メイドver）、なのは（STS）、フェイト（STS）、はやて（STS）

「はい！終了です！」

「…………… フェイトちゃん… もうやめたげよ？（汗）」

「え？でも… 結構ノリノリだよ？」

「それは洗脳しとるからや！？」

フェイト（少女期）、なのは（少女期）、はやて（少女期）、リオ
ン。

「邪魔するものは全て斬るよ……」

「結果は変わらないよ。そう……何度やってもね。」

「闇の炎に抱かれて消えや……」

「……………僕の真似をするな……（怒）」

。 リオン、なのは（少女期）、フェイト（少女期）、はやて（少女期）

「死にたくなければそこをどけ。」

「ごめんなさい……通してもらっよ……」

「私たちは進まなくてはいけないの……」

「そや……ウチらは……止まれへんのや………」

てな訳で思いつきでやってみました!!.....迷走して
るかも...(汗)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3465p/>

Lyrical Of Destiny 儚き孤独の魔法双剣士...

2010年12月22日20時40分発行